

“ Coffee break Talk. 8 アルゼンチンに学ぶ ”

支部長 今林 光秀

FIFA ワールドカップ 2022 カタール大会はアルゼンチン 3 度目の優勝で幕を閉じた。日本代表も健闘して日本でも盛り上がったが、特に準決勝から先でのインテンシティ Max「負けて国に帰れない」鬼気迫る緊張感と強度を見ていると「日本が BEST4 になるのはまだ先のことかな」と感じた。

4 年に一度のワールドカップ (W 杯) はオリンピックを凌ぐ世界最大 [アルゼンチン国旗] のスポーツイベントで第 1 回は 1930 年ウルグアイ大会 (ウルグアイが優勝)。カタール大会で第 22 回となる歴史は重く、直近 7 大会に出ている日本はサッカー新興国と言える。

W 杯を知ったのは日本で初めて W 杯が TV 実況放送された 1978 年アルゼンチン大会で当時中学生だった。アルゼンチン代表 FW マリオ・ケンペスが長髪なびかせ大活躍しアルゼンチン初優勝。巨大なスタジアム超満員アルゼンチンサポーターの迫力に痺れた。高校サッカーと天皇杯決勝しかサッカーを知らなかった自分が初めて世界の凄さを目撃した瞬間。そこから興味を持ち W 杯や三菱ダイヤモンドサッカー (古い人は知っている) を見るようになり、第 13 回 1986 年メキシコ大会でマラドーナ擁するアルゼンチン 2 度目の優勝にも心が震えた。アルゼンチン代表となぜかイタリア代表が好きになった。

本場のサッカーを見たくなり、2011 年ミラノのジュゼッペメアツツァで UEFA チャンピオンズリーグ準々決勝観戦、2011&2012 年バルセロナのカンプノウで見てしまった FCBarcelona の美しいサッカーと絶頂期メッシに興奮した。(Coffee break Talk 3 参照) そのメッシも代表タイトルには恵まれず批判も一身に受け、W 杯制覇が悲願だった。

今回のカタール大会はブラジルとフランスが優勝候補と言われ、両国ともにタレント豊富で戦術もレベル高く確かに強い。その一方でアルゼンチンはメッシも全盛期を過ぎ、他選手も超一流ほどではなく、**ベテランのメッシとやんちゃな若手達による個性派チーム**は初戦でサウジアラビアに負けるなど不安定であったが、徐々に調子を上げ勝ち上がり、準決勝アルゼンチン vs クロアチアを見てアルゼンチンひょっとして優勝かもと感じた。絶対に優勝すると言うアルゼンチンの気迫が前回準優勝国クロアチアを凌駕した試合。決勝アルゼンチン vs フランスはこの試合に関して言えばアルゼンチンが勝つ内容だった。アルゼンチン選手全員が前を向いてボールに向かう気迫満点プレーに戦術やシステムを超えた迫力が宿り、前回王者フランスは気圧されフランスのタレント達が時に下や横を向いていた。メッシは往年のスピードやキレほどないが円熟味あるプレーで状況を支配。メッシのパスは受ける若手が前へ進めて相手が絶対に奪えないタイミングとスピードで美しく、「お前ならできる任せた！」とベテランから若手への愛あるメッセージに見えた。

これから学びました。一人ではなくチームとして、ベテラン若手関係なく互いをリスペクトし、ベテランは若手の可能性を信じ、若手もベテランを信じ、美しいものを共有する信頼と気迫が尊いものなのだ。”Dear Lionel Messi. Thank you! and Congratulations !”

<< 2022 年 12 月 25 日 : X'Mas もコーヒーが美味しい! >>